

会 報

No.49 (1994年10月)

目 次

◆第17回日本分子生物学会のお知らせ(その3)	1
◆第17回総会のご案内	3
◆日本分子生物学会第9回評議員選挙について	3
◆日本学術会議第16期会員について	5
◆科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について	5
◆学術賞、研究助成への本学会推薦について	5
◆財団法人長瀬科学技術振興財団平成7年度助成候補者募集	6
◆山田科学振興財団1995年度研究援助候補推薦要項	6
◆財団法人ブレインサイエンス振興財団からのお知らせ	7
◆各種シンポジウムのお知らせ	7
○千里ライフサイエンス振興財団セミナー等のご案内	7
○第9回「大学と科学」公開シンポジウム	8
○文部省科学研究費重点領域研究「情報認識蛋白質」公開シンポジウム	8
○The 34th NIBB Conference	9
○文部省科学研究費重点領域研究「RNA レプリコン」国際シンポジウム	9
○文部省科学研究費重点領域研究「ゲノム情報」ワークショップ	9
○1994年度第21回電子顕微鏡試料作製技術講習会のお知らせ	10
○第15回国際神経化学会議のご案内	11
◆日本学術会議だより (No. 33, 34)	12

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆第17回 日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

第17回年会は、ポスター発表を中心にいたします。発表申込が、昨年（第16回年会）よりさらに330題増加し、合計1,924題となりました。シンポジウム、特別講演、バイオテクノロジー・セミナーと合わせると、全体で約2,200題の発表となります。年会のプログラムができましたのでお届けいたします。なお、年会についてのお問い合わせ、各種のご連絡は下記宛にお願いいたします。

〒565 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第17回 日本分子生物学会年会 係
TEL (06)873-2301 FAX (06)873-2300

参加手続きについて

1. すでに参加申込みをし、年会参加費を払い込まれた方は、11月30日頃にお送りするネームプレート（領収書兼用）に、名前をお書きになり、当日は胸に着けて入場下さい。講演要旨集の発行予定日は11月28日の予定です。発行後すみやかに発送いたします。
2. 当日参加の受付は、12月13日午前8時10分より神戸国際会議場・神戸国際展示場で開始いたします。当日、参加費を支払われる方は、年会参加費 **会員6,000円**（ただし、**学生会員は5,000円**、**非会員7,000円**）をお支払いのうえ、年会講演要旨集とネームプレートを受け取って入場下さい。ネームプレートは会場内では常に着用願います。
3. 年会第1～3日の3日間、午後5時より、ポスター・展示会場で、ミキサーを開催いたします。1部費用を負担していただきます。予約は要りませんので、奮って参加下さい。
4. 講演要旨集のみ購入されたい方は、会報 No. 48 に同封してお配りしました振替用紙にてご送金のうえ、お申込み下さい（1部：会員3,000円、非会員5,000円）。

ポスター発表についての注意事項

第17回 日本分子生物学会年会は、ポスター発表を中心にいたしました。下記の注意事項に従い準備をして下さい。また、ポスター会場で、発表者全員に3分間ずつの口演をしていただきます。

1. ポスター発表演題には、次の順序の発表番号がつけてあります。①発表日（年会何日目か）、②掲示パネル設置ブロック（国際展示場1階1A-1M；2階2A-2P）、および③パネル設置位置（1階1-221番；2階222-482番号）
2. 掲示スペースは、150 cm×150 cm で、両側に約30 cmの間隔があります。ポスター上部に、発表番号・演題・発表者名・所属を大きな字で書いて下さい。
見学者が特定のポスターを見いだすのに便利なように、演題・発表者名・所属は少なくとも5～6 m離れた位置からも明瞭に見える大きさにして下さい。なお、代表発表者の左肩に小さな○印をつけて下さい。取付けに必要な押しピンはポスター会場受付に準備してあります。
3. 言語は日本語、英語のどちらでもかまいませんが、簡単な序論と結論を含めるようにして下さい。また、日本語使用の場合は、英文の題目・氏名・所属・サマリーを序論の前に貼って下さい。
4. 研究内容は2～3 m離れたところからも読めるように、十分大きな字で書いて下さい。図・表等もできるだけ大きなものにして下さい。
5. ポスターの様式は自由です。カラーインクを用いて色分けする、図解を用いる、色付きの台紙に貼るなど見やすいものにする工夫をして下さい。
6. ポスター発表の時間は下記の通りです。時間を守るようにして下さい。
8：30～18：30 ポスター掲示（最終日は17：30まで）
8：30～9：00 取付け（第2、3、4日目に発表の分については各前日の18：30～19：00でも可）

- 15:00~16:30 ポスター口演
16:30~18:30 ポスター討論 (最終日は17:30)
18:30~19:00 取外し (最終日は17:30~18:00)

7. ポスター発表日の午後3時より、ブロック単位 (1ブロック14~18件の発表) で、ポスター口演を実施いたします。座長の指示に従い、パネル番号の順序で、一人3分間の要旨説明をして下さい。なお、ポスター会場受付にて発表者を示すリボンをお渡ししますので、これをお着け下さい。

ポスター発表の座長の方への注意事項

1. 年会期間中毎日午後3時よりポスター口演を実施いたします。依頼申し上げたブロックの進行を指揮下さい。
2. 各ブロックには、14~18題が掲示されます。演題順に1人3分の口頭説明を指揮下さい。
3. 若干の討論を実施しても結構ですが、5分以内に交代させて下さい。討論が長引きそうなら、関係者を進行に支障のない場所に移動させ、口頭説明を進行させて下さい。
4. ポスター発表者が、会場に居なければ、待たないで次の演者に進めて下さい。
5. 遅くとも午後4時30分には、口演を終了してください (5分×18題=90分)。午後5時より、同じ会場でミキサーを実施いたします。時間が延びて発表順位の遅い演者に不利益にならないよう、呉々もご注意下さい。
6. ポスターは、研究課題 (分類コード) に沿って、ブロックに配置するよう最大限の努力をいたしました。しかし、例外的には、異なる分野のポスターの混合となったブロックもあります。
7. 十分に広い会場を準備いたしました。ポスター発表の申込みが1,924題 (一日平均481題) になりましたので、当初計画よりやや混雑することが予想されます。問題が生じたら、組織委員会運営担当委員 (会場係) に相談下さい。

シンポジウムの講演者の方への注意事項

第17回 日本分子生物学会年会シンポジウムの講演者の方は、下記の注意事項に従い準備をして下さい。

1. 講演者は、講演の30分前までに該当会場の入口の受付で、各自でスライドホルダーにスライドを入れ試写して下さい。
2. スライドは35mm判とし、プロジェクターは1台です。同一スライドを2回以上使用する場合は必ず映写回数分をご用意下さい。
3. 講演はすべて世話人の指示に従って下さい。シンポジウムは、講演時間、討論時間が演題毎に異なりますのでご注意下さい。
4. 本年度の年会では、一部に重点領域研究班との共催シンポジウムがあります。それらについては一般公開となりますので、該当会場にだけ入場できる特別参加証を発行いたします。

シンポジウム世話人の方への注意事項

第17回 日本分子生物学会年会シンポジウムの世話人の方は、下記の注意事項に従い準備をして下さい。

1. 担当時刻の30分前までに該当会場の入口の受付までご連絡下さい。
2. 原則として会場内での写真およびビデオの撮影は禁止しますので、運営上ご留意下さい。
3. シンポジウムは、演題毎に講演時間、討論時間などが異なります。各シンポジウムの進行は世話人にお任せしますが12時には終了下さい。
4. 重点領域研究班との共催シンポジウム (公開) への一般参加者は年会他会場には入場できません。参加者にお知らせ下さい。

特別講演について

第17回年会では、4日間とも、2会場並行で特別講演を行ないます。(第1会場「現代日本の生命科学」、第2会場「現代の分子遺伝学」)。講演記録ビデオを、当日午後5時30分および翌日昼食時にビデオ会場で放映いたします。従って、全ての特別講演を聞くことが可能です。また、会員の方に限り収録したビデオを実費で頒布いたします。当日年会受付において予約下さい。

バイオテクノロジー・セミナーについてのお知らせ

第1日目から第4日目までの午後(15:00より)、7テーマについてバイオテクノロジー・セミナーが計画されております。詳細はプログラムならびに講演要旨集で紹介されます。

◆第17回総会のご案内

第17回年会の会期中に、日本分子生物学会第17回総会を下記により開催いたしますので、ご出席をお願いいたします。

(会長 吉川 寛)

記

日時：1994年12月15日(木) 午後 2:00~2:45

場所：神戸国際展示場2号館1階G会場

◆日本分子生物学会第9回評議員選挙について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって、第9回評議員選挙を行います。そのため、5月7日の第4回評議員会での確認に基づき、真木寿治(奈良先端科学技術大学院大学)、伊藤建夫(大阪大学)、升方久夫(名古屋大学)の3氏が選挙管理委員として会長より委嘱されました。

次いで選挙管理委員3名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、1994年8月31日までに入会手続を行った正会員とします。同封の「会員名簿」より10名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入ください。投票用紙を同封の小封筒(投票用紙在中と印刷)に入れ、封をした後、同封の送付用封筒(選挙管理委員会御中と印刷)に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入のうえご送付下さい。

投票締切日 1994年12月5日(月)(必着)

開票予定日 1994年12月14日(水)

当選者の決定 得票数の多い順に20名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。

なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意ください。

- 1) 投票用紙に11名以上連記した場合。ただし10名以下の場合には有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第7条8項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、

無効といたします。

石浜 明、岩淵雅樹、大島靖美、高浪 満、谷口維紹、富沢純一、豊島久真男、柳田充弘、
由良 隆

1994年11月1日

日本分子生物学会選挙管理委員会

真木 寿治

伊藤 建夫

升方 久夫

〈参 考〉

会 則 (抜すい)

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員任期は2年とする。

細 則 (抜すい)

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して3回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に20名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点者を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆日本学術会議第16期会員について

日本学術会議第16期（本年7月発足）会員として本学会より推薦した内田久雄氏が任命されました。さらに、新たに発足する分子生物学研究連絡委員会の構成について、内田久雄会員と吉川会長が中心となり人選を行い、次のように決定しました。

内田久雄（第4部会員、帝京大学）、吉川 寛（奈良先端科学技術大学院大学）、関口睦夫（九州大学）、水野重樹（東北大学）、岩淵雅樹（京都大学）、石浜 明（国立遺伝学研究所）、山本正幸（東京大学）、郷 通子（日本生物物理学会推薦、名古屋大学）、安楽泰宏（日本生化学会推薦、東京大学）

◆科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦について

日本学術会議より平成7年度科学研究費補助金の基礎生物学分科・分子生物学細目の審査委員の候補者の推薦を依頼されました。本年度新たに選出が必要な第1段審査委員候補の4名について、評議員の全会員を対象とした選挙に基づき4名の会員を推薦いたしました。また、第2段審査委員候補2名については、日本生物物理学会と協議のうえ今年度は日本生物物理学会より推薦することといたしました。

◆学術賞、研究助成への本学会推薦について

選考委員会の意見に従い、各種学術賞、研究助成について下記のように本学会より推薦しました。

○第11回（平成6年度）持田記念学術賞

大阪大学理学部教授・小川英行、大阪大学理学部講師・小川智子：遺伝的組換え蛋白質の機能と組換え開始の分子機構に関する分子遺伝学的研究

○平成6年度上原賞（研究業績褒賞）

九州大学生体防御医学研究所教授・関口睦夫：遺伝子損傷の修復と突然変異制御の機構

○第11回（平成6年度）井上学術賞

大阪大学医学部教授・中村敏一：HGF（肝細胞増殖因子）の発見と器官再生の分子機構の研究

○第21回（平成6年度）日産学術研究助成：一般研究

名古屋大学農学部教授・水野 猛：環境センサーによるシグナル受容と細胞内情報伝達ネットワーク形成機構の解析

千葉大学医学部教授・斉藤 隆：T細胞レセプター複合体の分子構築

なお、同時に奨励研究18件を本学会より推薦しました。

○第35回（平成6年度）東レ科学技術研究助成

東京大学大学院理学系研究科教授・坂野 仁：高次生体制御系における多重遺伝子族の発現制御

東京大学分子細胞生物学研究所助教授・堀越正美：転写開始複合体形成を中心とした核内シグナル情報伝達機構の解析

◆財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成7年度助成候補者募集

財団法人長瀬科学技術振興財団は、わが国の生化学及び有機化学等の分野における研究開発及び国際交流に対し助成等を行うことにより、科学技術の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与することを目的として、下記のとおり平成7年度の研究助成を行う事と致しました。(詳細は長瀬科学技術振興財団までお問合せ下さい。)

— 記 —

(1) 研究助成対象

- ① 生化学及び有機化学等の分野において研究活動を行う研究者又は研究機関
 - ② 生化学及び有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣又は招聘(除く留学)
- 生化学は次の分野とします。
- ・微生物の基礎及び応用研究
 - ・酵素の基礎及び応用研究
 - ・細胞培養の基礎及び応用研究
 - ・内因性防御物質の応用研究
- 有機化学は次の分野とします。
- ・ π 電子系機能材料の基礎及び応用研究
 - ・分子機能材料、機能分子デバイスの基礎及び応用研究
 - ・新規生理活性物質等の生体関連機能物質の合成研究

(2) 助成対象期間

平成7年4月から平成8年3月末まで

(3) 件数及び金額

- ① 研究助成金
1件250万円程度 10数件
- ② 国際交流助成金
1件50万円程度 10件程度

(4) 応募資格

- ① 研究者であれば個人又はグループを問いません。
- ② 同一内容で他の財団から既に助成を受けている個人又はグループはご遠慮願います。
- ③ 当財団に結果の報告書提出が可能なる方。

(5) 応募の締切り

平成6年12月15日

(6) 交付の時期

平成7年4月予定

(7) 問合せ先

応募ご希望の方は、下記宛にはがきあるいはFax等の書面でご請求下さい。申請用紙を折返しお送り致します。

(財)長瀬科学技術振興財団

〒550 大阪市西区新町1-1-17

TEL (06)535-2117・FAX (06)535-2160

〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-1

TEL (03)3665-3021・FAX (03)3665-3030

◆山田科学振興財団 1995年度研究援助候補推薦要項

援助の趣旨及び内容

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助を致します。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件当たり300~700万円、総額4,500万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考致します。
3. 援助金を給与に充てることは出来ませんが、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の計2年間とします。

推薦方法

- イ. 推薦者: 本財団が依頼した学(協)会の代表者
- ロ. 推薦件数: 1推薦者ごとに2件以内
- ハ. 推薦手続: 推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。
 1. 所定の推薦書用紙またはその写しに必要事項を記入したもの4部
 2. 添付書類(研学(95)-5/7ページ参照)

記載上の注意

- イ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ. 代表研究者は、所属のある場合、当該所属の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

推薦締切期日

本財団に推薦書が到着する締切期日は1995年3月31日

です。

選考方法

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

選考結果の通知

1995年7月末迄に推薦者及び代表研究者等宛て文書にて通知します。

援助金の贈呈

選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈致します。

推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団

(Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

TEL (06)757-3311 (代表)

研究の成果及び会計の報告

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出及び研究交歓会での発表をして頂きます。

付記

- イ. 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団(財団法人山田科学振興財団、Yamada Science Foundation)の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷1部、また著書の類にあってはその1部をご寄贈願います。
- ハ. ご提出頂きました推薦書及び添付書類は、お返しいたしません。

研究者各位へ

推薦者の項に対応する学(協)会は次記のとおりです。学(協)会により締切期日及び募集方法等が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学(協)会にお問合わせ願います。

日本天文学会	日本化学会	日本生理学会	日本生物物理学会
日本物理学会	高分子学会	日本遺伝学会	日本発生物学会
応用物理学会	日本農芸化学会	日本分子生物学会	日本植物生理学会
日本金属学会	日本薬学会	日本動物学会	日本植物学会
地震学会	日本生化学会	日本細胞生物学会	日本免疫学会
地球電磁気・地球惑星圏学会			

◆(財)ブレインサイエンス振興財団からのお知らせ

第9回研究助成候補者・塚原仲晃記念賞受賞候補者及び第8回国際交流助成候補者の推薦を公募

ブレインサイエンス振興財団では、平成6年度の助成、褒賞事業として下記の事業を行う計画で、候補者の推薦を公募している。

I. 助成、褒賞事業

1. 研究助成：ブレインサイエンスの分野において国際的評価に値する研究の助成。研究分野は、脳神経に関する実験的研究のみならず理論、モデリング研究をも含む。
助成件数 8件、1件 100万円
2. 塚原仲晃記念賞：生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者に賞牌及び賞金200万円を贈呈。(原則として1件)
3. 派遣助成：ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間の共同研究のための研究者の海外派遣の助成。往復渡航運賃を40万円を限度として若干件助成。(助成総額 150万円)

4. 招聘助成：ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間(3ヶ月以内)の招聘の助成。往復渡航運賃または滞在費を40万円を限度として若干件助成。(助成総額 100万円)

II. 推薦方法：関連学会代表責任者または研究者の所属機関長及び当財団の理事、評議員の推薦による。但し、所定の用紙に必要事項を記入すること。

III. 推薦締切日：1及び2については平成6年11月30日(水) 3及び4については平成7年1月17日(火)

IV. 選考：選考委員会での選考を経て、平成7年3月中に評議員会、理事会で決定。

推薦要領及び推薦書式を御希望の方は、80円切手同封のうえ財団宛文書でお申込下さい。

(財)ブレインサイエンス振興財団

〒104 東京都中央区八重洲2-6-20

ホンダ八重洲ビル 内 TEL(03)3273-2565

◆各種シンポジウムのお知らせ

○千里ライフサイエンス振興財団 セミナー等のご案内

・千里ライフサイエンス技術講習会 第4回

「免疫学、分子生物学および生理学のための
ペプチド合成とその検定法」

日時：平成6年11月15日(火) 午前10時～午後5時
場所：千里ライフサイエンスセンタービル9階および10階

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北改札口すぐ)

主催：財団法人 千里ライフサイエンス振興財団
 後援：株式会社 島津製作所
 協賛：株式会社 千里ライフサイエンスセンター
 内容：1. 高効率ペプチド合成の基礎と実際
 2. 生命科学の研究に必要なペプチドの検定法

講師：軒原 清史 株式会社島津製作所バイオ機器部専門部長
 東京農工大学 客員教授

定員：約30名

受講料：3,000円

申込締切：平成6年10月25日(財団必着)

申込方法：①氏名 ②所属(所在地、〒、電話・FAX番号)、③役職名を明記の上、郵便またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は参加決定後にご請求致します。

申込先：〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

(財)千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会係

TEL (06)873-2001 FAX (06)873-2002

・千里ライフサイエンスセミナー

ブレインサイエンスシリーズ 第7回「記憶・痴呆」

日時：平成6年11月18日(金) 午前10時～午後4時
場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北改札口すぐ)

主催：財団法人 千里ライフサイエンス振興財団
 協賛：株式会社 千里ライフサイエンスセンター
 コーディネータ 大阪大学医学部教授 遠山 正彌
 奈良先端科学技術大学院大学教授 塩坂 貞夫

プログラム

1. 海馬神経回路と記憶形成
福井医科大学助手 玉巻 伸章
2. 海馬に存在するプロテアーゼ
奈良先端科学技術大学院大学教授 塩坂 貞夫

3. 脳血管性痴呆の臨床と病理
 国立循環器病センター研究所部長 緒方 絢
4. 痴呆症と遺伝的要因
 大阪大学医学部講師 三木 哲郎
5. アルツハイマー病—多因子遺伝からのアプローチ
 新潟大学脳研究所教授 辻 省次
- 受講料（講演要旨集含む）
 会員（但し、大学、官公庁、主催・協賛団体会員）：6,000円
 非会員：8,000円
 学生：3,000円
- 定員：約200名
 申込方法：①氏名 ②所属（所在地、電話・FAX番

号）、③役職名を明記の上、郵便またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は三和銀行千里中央支店普通 No.3656634 財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込み下さい。なお、振込の際振込者名の前にB7とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先：(財)千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係
 〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
 千里ライフサイエンスセンタービル 8階
 TEL (06)873-2001 FAX (06)873-2002

○第9回「大学と科学」公開シンポジウム

「RNAの世界—遺伝暗号の謎に挑む—」
 日時：平成6年11月29日(火)～30日(水)
 場所：日経ホール（東京都千代田区大手町1-9-5 日経新聞本社8F）
 主催：第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
 後援：文部省、日本分子生物学会他

プログラム

11月29日(火) (10:00～16:45)

- 基調講演
 RNAと生命 京都大学 志村 令郎
- 遺伝暗号の起源と進化
 遺伝暗号—研究の歴史と概説
 生命誌研究館 大澤 省三
 遺伝暗号の起源 宇宙科学研究所 清水 幹夫
 遺伝暗号はどこまで変化するか
 東京大学 上田 卓也
 21番目のアミノ酸の遺伝暗号
 生命誌研究館 大浜 武
- RNAの構造から機能へ
 RNAの「かたち」と「はたらき」
 東京大学 横山 茂之
 リボソームRNAの新しい役割
 筑波大学 岡田 益吉

11月30日 (10:00～16:45)

- RNAのスプライシング
 RNAのスプライシングとは
 奈良先端科学技術大学院大学 安田 國雄
 mRNAを作るスプライシングのしくみ
 九州大学 谷 時雄
 - RNAワールドと生命の起源
 RNAワールドとは 東京工業大学 岡田 典弘
 RNA酵素 京都大学 井上 丹
 タンパク質合成系の起源 東京大学 渡辺 公綱
 - RNAから生物の系統を読む
 リボソームRNAから見た生物進化
 名古屋大学 堀 寛
 - RNAとバイオテクノロジー
 RNAの合成と利用 北海道大学 大塚 栄子
 聴講費：無料。聴講希望者が多数の場合は抽選となります。
- 聴講申込：シンポジウム名『RNAの世界』・氏名・〒・住所（自宅か勤務先を明記）・職業、をハガキにご記入の上、事務局宛にお申込みください。
- 申込先：第9回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
 〒100 千代田区霞が関3-2-2
 文部省学術国際局学術情報課気付
 TEL (03)3581-1932 (直通)

○文部省科学研究費重点領域研究「情報認識蛋白質」公開シンポジウム

「シグナル伝達と転写調節における蛋白質の高次構造」
 日時：12月9日(金)10:00～16:00
 場所：虎ノ門パストラル（地下鉄日比谷線・神谷町下車・徒歩2分）
 〒105 東京都港区虎ノ門4-1-1
 TEL (03)3432-7261

講演者：Daniele Rhodes（英、MRC）、伊倉光彦（カナダ、オンタリオ癌研）、西村善文（横浜市大）、稲垣冬彦（都臨床研）、森川耿右（蛋白研）、石井俊輔（理研）、水野 猛（名大）、山本 雅（東大）

来聴歓迎（参加費及び申込無用）なお講演終了後懇親会を行います。

主催：文部省科学研究費重点領域研究「情報認識蛋白質」総括班
 代表：西村善文（横浜市大・大学院総合理）
 TEL (045)787-2188
 連絡先：片平正人（横浜国立大学工学部）
 TEL (045)335-1451（内線2727）

○The 34th NIBB Conference

「Responses of the Photosynthetic Apparatus to Environmental Light Conditions

日時：1994年12月10日(土)―12日(月)

場所：基礎生物学研究所

講演者：

J. F. Allen (Univ. Lund, Sweden), J. M. Anderson (CSIRO, Australia), E. M. Aro (Univ. Truku, Finland), J. Barber (Imperial Coll., UK), D. A. Christopher (Univ. Hawaii, USA), A.-L. Etienne (CNRS, France), E. Gantt (Univ. Maryland, USA), S. S. Golden (Texas A & M Univ., USA), H. G. Krause (Heinrich Heine Univ., Germany), A. K. Mattoo (USDA/ARS, USA), S. Mayfield (Res. Inst. Scripps Clinic, USA), A. Melis (Univ. California, Berkeley, USA), B. Y. Moon (Inje Univ., Korea), I.

Ohad (Hebrew Univ., Israel), J. Sheen (Massachusetts General Hospital, USA), K. -J. van Wijk (Univ. Stockholm, Sweden)、相沢克則(基生研)、浅田浩二(京大・食研)、井上和仁(神奈川大・理)、小野高明(理研)、小保方潤一(北大・理)、加藤学(東邦大・理)、Z. Gombos(基生研)、佐々木幸子(京大・農)、佐藤公行(岡山大・理/基生研)、杉浦昌弘(名大・遺伝子)、竹葉剛(京府大・生科)、徳宮光恵(生物資源研)、豊島喜則(京大・総合人間)、藤田善彦(基生研)

オーガナイザー：村田紀夫(基生研)、佐藤公行(岡山大・理/基生研)

連絡先：佐藤公行(〒700 岡山市津島中 岡山大学理学部)

TEL (086) 251-7862、FAX (086) 255-3490

○文部省科学研究費重点領域研究「RNA レプリコン」国際シンポジウム

「Virus Reproduction in Cells, in Whole Bodies, and in Test Tubes」

日時：1994年12月12日(月) 10:30-18:00

場所：神戸国際会議場

座長：松原謙一(阪大・細胞生体工学セ)

三浦謹一郎(学習院大・生命分子科学研)

岡田吉美(帝京大・理工)

講演者：石浜明(国立遺伝研・分子遺伝)

D. Kolakofsky(ジュネーブ大)

吉倉広(東大・医)

A. Agol(モスクワ大)

野本明男(東大・医科研)

永井美之(東大・医科研)

三瀬和之(京大・農)

P. Ahlquist(ウイソコンシン大)

E. Wimmer(ニューヨーク州立大)

参加費：申込み不要

主催：文部省科学研究費重点領域研究「RNA レプリコン」総括班

代表：野本明男(東大・医科研)

連絡先：東京大学医科学研究所 ウイルス研究部

TEL & FAX (03) 5449-5501

○文部省科学研究費重点領域研究「ゲノム情報」ワークショップ

「第5回ゲノム情報ワークショップ」

(Genome Informatics Workshop 1994)

日時：1994年12月19日(月) 9:30-20:00

1994年12月20日(火) 9:00-17:50

場所：パシフィコ横浜会議センター5階(JR京浜東北線または東急東横線、桜木町駅下車、徒歩12分)

〒220 横浜市西区みなとみらい1-1-1

講演者：Tom Marr (CSHL)

Amos Bairoch (Univ. of Geneva)

Steve Bryant (NCBI)

榎原俊平・大井龍夫

参加費：無料(但し論文集代、懇親会費は有料)

主催：文部省科学研究費重点領域研究「ゲノム情報」

代表：金久寛(東大・医科研・ヒトゲノム解析センター)

参加申込先：東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター「第5回ゲノム情報ワークショップ」事務局

〒108 東京都港区白金台4-6-1

TEL & FAX (03) 5449-5611

E-mail: Workshop@ims.u-tokyo.ac.jp

○1994年度第21回電子顕微鏡試料作製技術講習会のお知らせ

〔主催〕 日本電子顕微鏡学会関東支部

本講習会では会員*を対象に、研究者および技術者の技術向上を目的とし、数名のグループ単位で実技指導します。テーマにより講習期間は異なりますが、一連の実習と講師とのディスカッションが能率よく計画されており、講習を終了すればそれぞれの試料作製が一通りできるようになることを目標にしています。申込方法などについては下記のとおりです。

*受講時までに本学会に入会されていれば受講できます。

入会申込先：日本電子顕微鏡学会

(日本学会事務センター 担当 山本)

TEL (03)5814-5801 FAX (03)5814-5820

〔申込方法〕

受講の申込は、指定の申込用紙(希望科目一科目につき一枚)に記入して郵送またはFAXして下さい。ご返事は各グループの講習開始より3週間前までに致します。講習費用は受講に関する通知が届き次第お送り下さい。申込用紙の記入は正確に、経験の程度を詳しく、今後取扱う試料(専門的に)などについてもお書き下さい。

〔申込先〕

〒990-23 山形市飯田西2-2-2

山形大学医学部解剖学第一講座(教授 外崎昭、事務担当 森 慶二)

TEL (0236)33-1110(直通) FAX (0236)25-8969

〔申込の受付と締切〕

9月1日より先着で受付、各グループとも定員になり次第締切ります。

注意

(1) 申込と受付について

- 1) 申込に際しては、科目とグループ番号(①、②…)を明記して下さい。
- 2) 講師に止むを得ない事情が生じた場合には、講習日程を変更させていただきます。
- 3) 講習グループの定員に満たない場合には、実施を中止させていただくことがあります。
- 4) 納入された講習費は返却致しません。ただし、代理人の受講を認めます。その場合はただちにご連絡下さい。

(2) 受講者の持参品について

電顕用ビンセットや白衣などの持参を受講者にお願する講習もあります。

詳細は受講の通知の際に、改めてご連絡致します。

〔講習の科目と地区・代表講師・期間・募集人員・費用〕

1. 生物試料超薄切片法 5日間 費用 60,000円

- ①東京 佐々木崇寿(昭和大・歯・解剖)
1994年11月8日～11月11日 2名
(硬組織、ただし期間は4日間)
- ②東京 廣澤 一成(東大・医科研)
11月14日～11月18日 3名
- ③神奈川 山科 正平(北里大・医・解剖)
11月14日～11月18日 5名
(希望者には、免疫電顕の基礎技術も指導可)
- ④宮城 近藤 尚武(東北大・医・解剖)
11月28日～12月2日 2名
- ⑤千葉 千葉 胤道(千葉大・医・解剖)
12月5日～12月9日 2名
(神経組織、他の組織も可。また免疫電顕の基礎技術も指導可)

- ⑥東京 田中 寿子(慈恵医大・医科研)
12月12日～12月16日 5名
- ⑦群馬 石川 春律(群馬大・医・解剖)
12月12日～12月16日 4名
- ⑧千葉 永野 俊雄(千葉大・医・解剖)
12月13日～12月17日 3名
- ⑨東京 中井 康光(昭和大・医・解剖)
12月19日～12月21日 3名
(光顕レベルの切片作製経験のある方)
- ⑩筑波 河野 邦雄(筑波大・医・解剖)
1995年1月23日～1月27日 3名

2. 走査電子顕微鏡試料作製法(医・生物)
3日 費用 40,000円

- ①東京 高橋 一郎(帝京大・医・中央電顕)
1994年12月5日～12月7日 5名
- ②東京 田中 寿子(慈恵医大・医科研)
12月5日～12月7日 3名
- ③東京 大隅 正子(日本女子大・理)
12月19日～12月21日 3名
- ④山形 佐々木克典(山形大・医・解剖)
1995年1月16日～1月18日 8名

3. オートラジオグラフィ(医・生物) 5日間
費用 60,000円

- ①東京 廣澤 一成(東大・医科研)
1994年11月28日～12月2日 3名
- ②長野 永田 哲士(信州大・医・解剖)
12月12日～12月16日 5名
(急速凍結、凍結超薄切片、凍結置換、凍結乾燥法を含む)

4. フリーズ・レプリカ法(医・生物) 3日間
費用 40,000円

- ①山形 渡辺 皓(山形大・医・看護)
1994年11月16日～11月18日 3名
- ②山梨 大野 伸一(山梨医大・大・解剖)
11月30日～12月2日 3名
(ディープエッチングレプリカ法を含む)
- ③千葉 永野 俊雄(千葉大・医・解剖)
1995年1月10日～1月12日 3名

5. 電顕組織細胞化学 4日間 費用 50,000円

(1) 免疫組織細胞化学

- ①東京 佐々木崇寿(昭和大・歯・解剖)
1994年11月8日～11月11日 3名
(硬組織)
- ②神奈川 渡辺 慶一(東海大・医・病理)
11月29日～12月2日 4名
- ③東京 山下 修二(慶応看護短大)
1995年1月17日～1月20日 5名

(2) 酵素組織細胞化学

- ①栃木 斎藤多久馬(自治医大・解剖)
1994年12月6日～12月9日 5名
- ②長野 永田 哲士(信州大・医・解剖)
1995年1月5日～1月8日 5名
(急速凍結、凍結超薄切片、凍結置換、凍結乾燥法を含む)

6. 凍結超薄切片法(医・生物) 3日間
費用 40,000円

- ①群馬 高田 邦昭(群馬大・生体調節研)
1994年11月28日～11月30日 4名
(免疫組織化学への応用)

7. 電子顕微鏡操作と写真技術 3日間
費用 40,000円
①東京 廣澤 一成 (東大・医科研)
1994年11月14日～11月16日 3名
8. 断面観察用試料作製と高分解能観察法 3日間
費用 40,000円
①東京 市野瀬英喜 (東大・工)
1994年12月13日～12月15日 4名
9. 高分解能電子顕微鏡観察法 3日間
費用 40,000円
①筑波 松井 良夫 (無機材質研)
1994年11月15日～11月17日 2名
(超高压電顕を使用)
10. 高分子材料の電子顕微鏡試料作製法 3日間
費用 40,000円
①群馬 甲本 忠史 (群馬大・工)
1994年11月16日～11月18日 4名

11. 病理診断のための電顕試料作製法 5日間
費用 60,000円
①東京 相原 薫 (日本医大・中央電顕)
1994年12月5日～12月9日 6名
(一條尚先生による硬組織試料の超薄切片法も含む)
12. 生体組織中のアスベストの定量試料作製法 3日間
費用 30,000円
①神奈川 神山 宣彦 (産業医学総研)
1994年12月13日～12月15日 4名
(大気中浮遊粒子の定量試料作製法を含む)

○第15回国際神経化学会議のご案内

「15th Biennial Meeting of the International Society for Neurochemistry」

会期：1995年7月2日(日)～7月7日(金)
会場：国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)

主な議題：

- ①神経伝達物質の代謝と機能
- ②受容体の構造と機能
- ③神経構成素材：神経特異性蛋白質・脂質の検討
- ④脳神経疾患の神経化学的解析
- ⑤脳の成長と老化の神経化学
- ⑥記憶と学習の物質的基礎
- ⑦神経疾患の神経化学
- ⑧向精神薬の作用の神経化学的基礎
- ⑨抗痴呆薬の開発をめぐる神経化学
- ⑩神経細胞接着因子
- ⑪細胞増殖因子

プログラム：シンポジウム13題、コロキウム15題、ワークショップ16題(サテライトシンポジウム14題)

一般演題募集要項：

- (1)発表形式 口演、又はポスター展示
- (2)応募締切 1994年12月15日(木)必着
- (3)申込方法 ファクシミリ又はハガキに、ご氏名・送

付先・Registration Brochure(要項・抄録用紙・登録用紙含む)の必要部数を明記し、下記の事務局にお送り下さい。折り返し、Registration Brochureを郵送いたします。

参加費：事前登録

	'94.12.15.まで	'94.12.16.以降
ISN 会員	¥40,000	¥50,000
非 会 員	¥50,000	¥60,000
学 生	¥25,000	¥35,000
同 伴 者	¥20,000	¥20,000

※'95.5.20.以降は当日会場にて受付致します。

事務局：〒600 京都市下京区塩小路通新町西入る
新京都センタービル5F (株)ジェイコム内
第15回国際神経化学会議事務局
TEL (075)341-1618 FAX (075)341-1917

※関連会議として第38回日本神経化学会が、1995年7月1日(土)～7月2日(日)に同会場(国立京都国際会館)にて開催されます。

第15期最後の総会開催される

平成6年6月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、5月25日から27日まで開催された第118回総会の概要と同総会で採択された「新しい方式の国際研究所の設立について(勧告)」、「公的機関の保有する情報の学術的利用について(要望)」、「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(声明)」についてお知らせします。

日本学術会議第118回総会報告

日本学術会議第118回総会(第15期・第6回)が、5月25日～27日の3日間にわたって開催されました。

総会の初日(25日)の午前は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告が行われました。次いで、今回総会に提案されている13案件について、それぞれ提案説明と質疑応答が行われました。午後からは、各部会が開催され、総会提案案件の審議及び各部会個別案件について審議が行われました。

総会2日目(26日)の午前は、前日提案された13案件のうち、9案件の審議・採択が順次行われました。

まず、「日本学術会議会則の一部を改正する規則」、「日本学術会議の運営の細則に関する内規の一部改正」、「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規の一部改正」、「副会長世話担当研究連絡委員会の運営について(申合せ)の一部改正」及び「第16期における研究連絡委員会委員の在任期間等に関する規定の適用について(申合せ)」について一括して討論が行われ、採決の結果、いずれも可決されました。これらの会則、内規等の改正は、

1. 運営審議会の構成員等の見直し

常置委員会と運営審議会の連絡を緊密にし、運営審議会の議論をより充実させるため、常置委員会委員長が常時運営審議会に出席することとし、併せて、運営審議会の構成員の見直しを行うこと。

2. 第7常置委員会の設置及び第16期に向けての研連の見直し

国際対応委員会の改組について(申合せ)(平成

5年4月22日第116回総会決定)に沿って第7常置委員会を設置し、併せて、各部等での検討結果を踏まえ、第16期へ向けての研連の見直しを行うこと。

3. 研連委員の在任期間等関係

研連委員の在任期間に関する運営内規の解釈をより一層明確化するとともに、将来に向けての研連活動の継続的発展・活性化を図るため、研連委員の在任期間等についての関係規定を整備すること。

を趣旨とするものです。

次に、「運営審議会附置会員推薦手続検討委員会の設置」についての討論・採決が行われ、可決されました。これは、会員推薦制度導入以来、今回で4度目となり、会員推薦手続の過程において、幾つかの問題点がみられたことから、これらの諸問題について審議するため、新たな委員会を運営審議会に附置するものです。

続いて、「新しい方式の国際研究所の設立について(勧告)」、「公的機関の保有する情報の学術的利用について(要望)」、「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(声明)」についての討論・採決が行われ、可決されました。午後は、「第6常置委員会報告～国際学術交流・協力の飛躍的発展のために～」、「人口・食糧・土地利用特別委員会報告～21世紀の人口・食糧問題に対する全人類の取組に向けて～」、「学術国際貢献特別委員会報告～学術国際貢献のための新たなシステムについて～」及び「死と医療特別委員会報告～尊厳死について～」の4件の対外報告について討論が行われ、それぞれ承認されました。

総会3日目(27日)は、午前は各常置委員会及び国際対応委員会が、午後は各特別委員会がそれぞれ開催されました。

新しい方式の国際研究所の設立について (勧告) (抄)

近年、学術の国際交流がますます盛んになるとともに、新しい方式の研究所が世界の国々に設立されている。それらの新しさは、固有の研究員をほとんどたず、国内外から招請した客員研究員による共同研究を企画し実行する点にある。この方式にふさわしい分野としては、自然科学のみならず、人文科学、社会科学を含め様々な領域が考えられるが、理論構築を主眼とする研究領域においては、研究テーマを学際的、機動的に選択する上で特に有効である。これは、また国を異にする若手研究者が相集い、生活と研究ないし研修を共にする場としても大きな効果を生むであろう。実際、世界的には、この意味で成果をあげている新研究所も少なくない。

さらに、いま国際貢献が基礎科学においても強く求められているが、それは、学術研究の推進と相互に強め合うべきものであって、このためにも新しい方式は最適である。

こうした観点から、新しい方式の国際研究所の設立が必要であり有用であるとの結論に達したので、ここにその設立を勧告する。

公的機関の保有する情報の学術的 利用について (要望) (抄)

研究者が学術研究のために必要とする情報には、極めて広範囲なものが含まれており、その内容は、学問分野によっても多種多様である。学問分野によっては、公的機関の保有する情報が学術研究にとって極めて重要ないしは不可欠な意味をもつことになる場合も少なくないが、多くの場合に、かかる公的機関の保有する情報を学術情報として利用することには困難が伴っている。それは、公的機関の保有する情報の少ない部分が公開されておらず、学術情報としての利用についてもその開示を求めることができないからである。

このような公的機関の保有する情報の学術的な利用のためにも、まず基本となるのは、国民の基本的な権利に基づく公的機関の保有する情報の公開制度である。この制度の確立によって、公的機関の保有する情報の学術情報としての利用も同時に保障されることになるからである。公的機関としては、国家機関及び地方公共団体機関を挙げることができるが、国家機関の保有

する情報についての公開制度が設けられていないことは、学術研究にとっても特に重大な障害となっている。国民の「知る権利」を中心とする基本的権利を保障するための国家機関の保有する情報の公開制度は、学術研究にとっても極めて重要な意味をもっているといえることができる。国民の基本的な権利を保障するために、また学術研究の推進のためにも、原則公開を基本とした確かな内容を持つ国の情報公開制度の確立が不可欠であると考えられるので、ここに情報公開法の制定を要望する。

なお、公的機関の保有する情報の学術的利用については、情報の保存及び研究者による非公開情報の利用についての検討が必要である。

女性科学研究者の環境改善の緊急性 についての提言 (声明) (抄)

女性の社会的地位の向上を目指す取組が、国際的にも国内的にも種々行われているが、日本学術会議においても第10期及び第12期に女性科学研究者の地位の向上に関する「要望」を決議した。今期、すなわち第15期の発足に当たり、日本学術会議は「女性研究者の地位の向上」に留意することを再確認し、今期の活動計画の一つにこの課題を取り上げ審議してきた。その結果、女性科学研究者の地位の向上の必要性は理念的には一般化したものの、科学者全体の対応の遅れもあって、その地位は実質的に余り改善されていないことが明らかになった。

このため、特に基礎科学分野における科学研究者不足の事態が目前に迫っている現在、我が国における科学の調和のある発展のために、第10期、第12期での男女平等の視点を前提としつつ、日本学術会議は、改めて女性科学研究者の環境改善の緊急性を指摘するとともに、関係方面に環境改善の促進を強く訴えるものである。

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

第16期最初の総会開催される

平成6年8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第16期が平成6年7月22日(金)からスタートし、7月25日から7月27日までの3日間、第119回総会が開催されました。今回の日本学術会議だよりでは、総会の概要等についてお知らせします。

日本学術会議第119回総会報告

平成6年7月22日から、第16期が開始されましたが、この第16期会員による最初の総会である、日本学術会議第119回総会が、7月25日から27日までの3日間にわたって開催されました。

初日(25日)の午前は、辞令交付式が、総理大臣官邸ホールで行われ、210名の会員のうち海外出張中等の22名を除く188名の会員が出席しました。式は、村山内閣総理大臣、五十嵐内閣官房長官、石原官房副長官、文田総理府次長等の出席を得て行われ、第1部から第7部までの全会員の名前が読み上げられた後、会員を代表して最年長である中田易直第1部会員が、村山内閣総理大臣から辞令を受け取りました。この後、村山内閣総理大臣が「会員の皆様には独創性豊かな学術研究の発展等のため、総合的観点に立って学術研究に係わる諸問題の解決に御尽力いただきたい」とあいさつし、これに応じて、中田易直第1部会員が「微力ながら全力を尽くし、重要な職責を全うし、国民の期待に応えたい」とあいさつしました。午後は、日本学術会議講堂において、総会が開催され、会長、副会長(2名)の互選が行われました。その結果、会長には、伊藤正男第7部会員が、人文科学部門の副会長には、利谷信義第2部会員が、自然科学部門の副会長には、西島安則第4部会員が、それぞれ選出され、伊藤会長及び利谷副会長(西島副会長は海外出張中)からそれぞれ就任のあいさつを行いました。続いて、各部会が開かれ、各部の部長、副部长及び幹事の選出等が行われました。(第16期の役員については、別掲を参照)

2日目(26日)は、午前10時から総会が開催され、近藤前会長が海外出張中のため代理として川田前副会長が第15期の総括的な活動報告を行い、続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長の代理として高岡事務総長が、第16期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行いました。引き続き、事務総長から第16期会員対して実施した「第16期の日本学術会議が取り組むべき課題について」のアンケートの結果について説明がありました。総会終了後は、各運営審議会附置委員会、各部会、各常置委員会等が開催されました。また、夕方には、総理大臣官邸ホールにおいて、村山内閣総理大臣主催の日本学術会議第16期会員との懇談会が初めて開催されました。懇談会は、村山内閣総理大臣のあいさつで開会し、五十嵐内閣官房長官の発声による乾杯、伊藤会長の答礼のあいさつの後、懇談に入りました。来賓として、与謝野文部大臣、田中科学技術庁長官、吉田農林水産政務次官、藤田日本学術院院長ほか大勢の方が出席され、あふれんばかりの人々で歓談が続き盛会となりました。

3日目(27日)は、午前10時から総会が開会され、会長から「第16期活動計画の作成について」の申合せ案について提案があり、原案どおり可決されました。続いて、第16期の活動計画についての自由討議が行われ、各部長から各部会での意見が披露されるなど活発な発言がありました。総会終了後は、地区会議合同会議、各運営審議会附置委員会、各常置委員会等が行われました。その後、運営審議会が開催され、第16期の活動計画の素案作成のために、運営審議会構成員の中から起草委員を選出し、審議に入りました。

第16期日本学術会議役員

第16期日本学術会議会員の概要について

会 長	伊藤 正男 (第7部・生理科学)
	理化学研究所国際 フロンティア研究システム長
副会長	利谷 信義 (第2部・基礎法学)
	お茶の水女子大学 (生活科学) 教授
副会長	西島 安則 (第4部・化学)
	日本ユネスコ国内委員会会長

〔各部役員〕

第1部	部 長	中田 易直 (歴史学)
	副部長	戸川 芳郎 (哲学)
	幹 事	堀尾 輝久 (教育学)
	幹 事	森岡 清美 (社会学)
第2部	部 長	中山 和久 (社会法学)
	副部長	山口 定 (政治学)
	幹 事	兼子 仁 (公法学)
	幹 事	山中永之佑 (基礎法学)
第3部	部 長	柏崎利之輔 (経済政策)
	副部長	岡本 康雄 (経営学)
	幹 事	河野 博忠 (経済政策)
	幹 事	二神 恭一 (経営学)
第4部	部 長	伊達 宗行 (物理科学)
	副部長	竹内 郁夫 (生物科学)
	幹 事	井口 洋夫 (化学)
	幹 事	新藤 静夫 (地質科学)
第5部	部 長	内田 盛也 (応用化学)
	副部長	大橋 秀雄 (機械工学)
	幹 事	増子 昇 (金属工学)
	幹 事	松尾 稔 (土木工学)
第6部	部 長	志村 博康 (農業工学)
	副部長	北村貞太郎 (農業工学)
	幹 事	島田 淳子 (家政学)
	幹 事	平田 熙 (農芸化学)
第7部	部 長	渥美 和彦 (内科系科学)
	副部長	金岡 祐一 (薬科学)
	幹 事	入江 實 (内科系科学)
	幹 事	細田 泰弘 (病理科学)

〔常置委員会〕

第1常置	委員長	利谷 信義 (第2部)
第2常置	委員長	中塚 明 (第1部)
第3常置	委員長	村上 英治 (第1部)
第4常置	委員長	増本 健 (第5部)
第5常置	委員長	山中永之佑 (第2部)
第6常置	委員長	鹿取 廣人 (第1部)
第7常置	委員長	井口 洋夫 (第4部)

(注) カッコ内は、所属部・専門

この度任命された210人の第16期日本学術会議会員の概要を以下に紹介します。(カッコ内は第15期)

1 性別	男性209人	女性1人
2 年齢別	45～49歳 1人	50～54歳 3人
	55～59歳 26人	60～64歳 93人
	65～69歳 72人	70～74歳 12人
	75～79歳 1人	
	最年長 75 歳 (74 歳)	
	最年少 47 歳 (54 歳)	
	平均年齢 63.6歳 (63.3歳)	

3 勤務機関及び職名別

(1) 大学関係	国立大学	59人
	公立大学	2人
	私立大学	111人
	公私立短期大学	2人
	計	174人
(2) 国立私立試験研究機関・病院等		9人
(3) その他	法人・団体関係	5人
	民間会社	6人
	無職	14人
	その他	2人
	計	27人

4 その他の分類

(1) 前・元・新別	前会員	82人
	元会員	3人
	新会員	125人
(2) 地域別 (居住地)		
	北海道	3人(5人)
	東北	9人(8人)
	関東	136人(133人)
	中部	14人(19人)
	近畿	41人(34人)
	中国・四国	3人(5人)
	九州・沖縄	4人(6人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第49号（1994年10月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所